

淀屋橋駅(地下鉄御堂筋線)②

大阪の知の館・緒方洪庵の適塾をめぐる

淀屋橋駅(京阪本線) 大江橋駅(京阪中之島線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.096

地下鉄・京阪淀屋橋駅

①除痘館発祥の碑

死の病と恐れられていた天然痘の予防法として、ジェンナーが開発した痘苗が嘉永2年(1849)に長崎に伝わると、緒方洪庵はそれを入手して、道修町に除痘館を開設しました。当時、種痘は人の腕から腕へ7日以内に植え継ぐ必要がありましたが、「種痘を受けると牛になる」といった悪評がたち、普及は困難を極めたといわれます。

②御霊神社

社伝によると、船場から西船場にかけての一带、旧摂津国津村郷の産土神として古くから人々の信仰を集めていました。適塾の塾生たちもことあるごとに参拝し、祭礼を楽しんだといわれています。

③懐徳堂跡

江戸中期に大坂の豪商たちが共同して出資して設立した私学です。諸般の藩校と違って自由闊達な学風をもち、富永仲基や山片蟠桃などのすぐれた町人学者を輩出しました。両替商・升屋の番頭として腕を奮った山片蟠桃は、博学の大書『夢の代』を



著し、歴史、自然、経済、医学に科学的、合理的な考察を加え、近代的な思想を展開した学者です。地動説や無神論も考察されています。出版はされませんが写本が広く読まれ、大阪的合理精神の理論的支柱になりました。

④除痘館跡

万延元年(1860)に除痘館はいまの今橋に移転しました。現在は緒方ビルになっており、1階には、適塾で学んだ曾祖父・良庵のことを描いた手塚治虫の漫画『陽だまりの樹』のパネル展示、4階に除痘館記念資料室があります。

⑤適塾

蘭学者にして医者、教育者の緒方洪庵の私塾。洪庵の号「適々斎」が塾名の由来です。全国から門弟が集い、福沢諭吉、佐野常民、大村益次郎、手塚良庵、橋本左内らが著名な塾生ですが、通学者を含めると3000名近くがここに学びました。1冊しかなかった蘭和辞書「ゾーフ辞書」の部屋、激論のストレスで刀痕が柱に残る大広間があります。塾生の生活を世話していたのが八重夫人で、「私のおっかさん」

(諭吉)「門生を持つに誠切なること子の如し」(常民)と慕われました。大阪大学医学部の源流です。

⑥緒方洪庵先生像

適塾の西隣にある公園に建てられた緒方洪庵の坐像。洪庵が医者的心得を説いた『扶氏医戒之略』には、「(医師は)周く俗情に通ぜざるべからず」とあり、世俗をよく知りなさいと説いています。



地下鉄・京阪淀屋橋駅

